

花と緑の銀行だより

197号 2015.9



タイトル：「夏の松桜閣」

撮影場所：(黒部市若栗)

目次

- ・花と緑の提言〈「花と緑にあふれるまちづくりを目指して」(黒部支店)〉…………… 2
- ・活動事例〈「舟橋村の緑化推進活動について」(舟橋支店)〉…………… 3
- ・技術講座〈魅力的な花壇づくり3〉…………… 4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②〉…………… 5
- ・写真コーナー〈平成27年度富山県花のまちづくりコンクール〉…………… 6
- ・この人あり〈「異世代交流で123家の花畑づくり」(富山支店)〉…………… 7
- ・情報コーナー〈新幹線駅周辺花いっぱいおもてなし事業の取り組み〉…………… 7



花と緑にあふれるまちづくりを目指して

花と緑の銀行黒部支店長

黒部市長 堀内 康 男

黒部市は県北東部に位置し、雄大な北アルプスから黒部峡谷を刻みながら流れ下ってくる黒部川の恵みを受けて発展してきました。

名勝黒部峡谷や宇奈月温泉、こんこんと湧き出る清水（しょうず）やくろべ牧場まきばの風など、観光資源を多く有する当市においては、花と緑で来訪される方々をおもてなしする意識が古くから根付いています。

花のまちづくりを精力的に進めている花壇として、「前沢カンナロード」、「くろべ名水公園花壇」等があります。



写真1 前沢カンナロード

前沢カンナロードは、アメリカ合衆国ジミーカーター元大統領が来市された際に、沿道を花で彩ったのが始まりであり、球根の植込みから水やり・除草、カンナ芋の堀上げ貯蔵と、約7ヶ月のあいだ延長1kmに及ぶ花の道を地域住民が一丸となって管理しています。昭和59年に活動を開始し、30年以上続く地区の誇りとなっています。

くろべ名水公園花壇は、黒部川扇状地が全国名水百選に選ばれたことを機に昭和63年に整備された花壇です。地元有志で組織する生地フラワー友の会が中心となって管理をしており、清水を汲みに来られた方やまちあるきで清水をめぐる方々、公園を散策する地域住民の方々の目を楽しませています。



写真2 くろべ名水公園の清水と花壇

新幹線開業の際には、黒部宇奈月温泉駅が立地する若栗地区住民により、満開に咲く県花チューリップで来訪されるお客様をお迎えするため、おもてなしフラワー事業に取組みました。

通常よりも1ヶ月ほど早く開花させるため、加温と換気を行い細心の注意のもと管理した結果、100鉢約2,000球のチューリップを開業日に咲かせることができました。

現在は、季節ごとに花を植替えし、黒部宇奈月温泉駅と松桜閣を彩っています。

本市の緑化活動は、99名の頭取・グリーンキーパーの尽力はもとより、地域住民の方々のおもてなしの心によって支えられています。

花と緑の銀行黒部支店といたしましては、地域花壇の活動に引き続き支援をしていくほか、花と緑によるおもてなしの心が今まで以上に広く浸透するようイベントや講習などの事業を実施してまいりたいと考えております。

また、より一層花と緑にあふれるまちづくりを進めていくため、新たな仲間づくりの推進や学校花壇等で情操教育に取り組む活動に対しても、支援を継続してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、公益財団法人花と緑の銀行の今後益々の発展と、皆様方のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

舟橋村の緑化推進活動について

花と緑の銀行 舟橋支店

舟橋村は、富山県のほぼ中央に位置し、富山市、立山町、上市町に隣接しています。東西・南北それぞれ約2kmと非常にコンパクトな村域であり、面積は3.47km²と日本一面積の小さい自治体として知られています。一級河川常願寺川の右岸に位置し、村内には二級河川の細川や京坪川、八幡川が流れるなど、水に恵まれ、地形は全域が平野や平地となっています。この豊かな自然と地理的環境を活かして整備された田園と、雄大な立山連峰を望む景観は四季おりおりの趣ある風情を醸し出しています。また、富山市中心部へは電車で13分、車で20分、国道8号線及び北陸自動車道立山ICへそれぞれ5分でアクセスできる地理的条件が本村の強みとなっています。昭和46年に富山・高岡広域都市計画区域の指定を受け、昭和63年には富山・高岡広域都市計画区域から除外され、新たに立山・舟橋都市計画区域に指定されました。平成に入り、人口増施策を実施してきた結果、人口が倍増し、平成22年に3,000人を超えました。子育て世代が多く転入してきたため、子どもの数も増えており、村民の年齢も若く活気に溢れる村となっています。

こういった状況の下、花と緑の銀行舟橋支店舟橋地方銀行が主体となり、数々の緑化事業を推進しています。代表的な事業として、舟橋駅周辺の緑化推進事業があります。舟橋駅は、富山地方鉄道越中舟橋駅と舟橋村立図書館が一体となった文化複合施設として、全国的にも注目されています。また、駅舎の南にはパークアンドライド方式による駐車場が整備されており、毎朝、村内外から多くの方に利用されています。このように、村の表玄関となっている舟橋駅前や駅のホームを、花と緑で美しく整備し多くの方に快適に利用していただくため、プランターを設置しています。頭取及び7名のグリーンキーパーが主体となり、花

苗や球根等の植栽を行っています。その後の水やり、施肥、季節に応じた花の植替え等の維持管理についても1年を通して行い、駅周辺の緑化事業をすすめています。

この活動は、駅や図書館の利用を促進するだけでなく、舟橋村のイメージアップにもつながっており、今後も今まで以上の活動を展開していきたいと考えています。

また、舟橋村を全県的にPRすべく、コンテナガーデンコンテストの出展も継続しています。昨年は、ばんどり騒動の集結地となった無量寺と蓮の花、村のメインロードのオレンジロード沿いを流れる京坪川をイメージしたコンテナガーデンを作成しました。地方銀行が1つのみの舟橋村ですが、今後も、水と緑に恵まれた舟橋村のPRに、積極的に出展していきたいと考えています。

また、舟橋小学校では、小学校の前を通る県道立山舟橋線沿いに整備された花壇を、4～6年生の児童約110名が、学年ごとに花壇の水やりや施肥等の活動を行っています。今後の舟橋村の将来を担う子供達に、花と緑について、正しい知識や理解を持った子供たちを育てていくことも重要な職務と考えております。

先にも述べたとおり、舟橋村は近年、人口・世帯数ともに増加し、それに伴い住民ニーズも多様化しています。その中で、オレンジパークふなはしの拡張や駅前にあらたに整備予定の公園など、緑を活用した村づくりを進めていく中で、今後も、村と花と緑の銀行舟橋地方銀行と村民が、より良い緑化事業の推進について今まで以上に協議し、運営していきたいと考えています。そして、日本一の花と緑の県づくりの一翼を担えるよう、当支店及び村関係者が一丸となって、緑化事業をすすめていけるよう、努力して参ります。



写真1 駅ホーム写真



写真2 小学校前花壇

カラーリーフを活かす工夫

花と緑の銀行 普及研修部

花壇を長く美しく楽しむためには、次から次へと花を咲かせ続けることが必要です。しかし、花によっては、切り戻した後の花あがりが遅いものや夏の暑さに休止してしまうものがあり、活力を保ち続けることはとても大変です。

そんな時、カラーリーフを組み合わせれば、いつでも生き活きとした花壇をつくることができます。県内でカラーリーフを上手に活用した事例を紹介します。

1. 花よりも華やかに！

白い葉の先に鮮やかなピンクの新芽が輝いて、まるで花が咲いたようなカラーリーフはハツユキカズラです。新芽はピンクでやがて白に変わり、生育が進むと緑色になります（写真1）。

地上を這うようにのび、グランドカバープランツとしても使えます。また、大きな鉢いっぱいには生育させた豪華な花飾りを見つけました（写真2）。

花と花の空間を埋めたり、株基を引き締めたり、寄せ植えに組み込んだり、まさに、早春から雪が降るまで、長く楽しめる最優秀のカラーリーフです。



写真1 花かと思うハツユキカズラ
(砺波市 宮野裕子さん宅)



写真2 ハツユキカズラの豪華な花飾り
(富山市 四方保育所)

2. 和風の庭を爽やかに彩る！

鮮やかな緑色の苔の庭に斑入りのフウチソウが爽やかにそよいでいます（写真3）。ともすると暗くなりがちな和風の庭を、パット明るくしてくれます。暑い暑い夏の日でも、ひと風吹いて白い葉先が揺れれば、清涼感が満ちるにちがいありません。

ただし、きれいな斑入りを保つためには、夏の直射日光を避けることが大切です。

また、鉢植えにして楽しむこともできます。和風の庭だけでなく、洋風の花壇に活用してみるのも、おもしろいかもしれません。



写真3 真夏も涼しげな斑入りのフウチソウ！
(射水市 浅井ひとみさん宅)

3. 緑花木のカラーリーフを楽しむ！

ネグンドカエデ“フラミング”は新葉がピンクでやがて白、やがて、淡い緑色に変化する美しい緑化木です。これに似た葉色を変化させるものとして、イヌコリヤナギ“白露錦”があります。

また、葉先が細長く垂れ下がるヒヨクヒバ、手のひらに似たコノテガシワ、黄金色のゴールドクレスト、青緑色のブルーヘブンなど、色や葉の形の異なる数種類のコニファーを組み合わせることで変化に富んだガーデンをつくるのも一興です。

ただし、大きくなりすぎないように、矮性の品種を選んだり、こまめに剪定・整形して、全体のバランスを崩さないようにすることが大切です（写真4）。



写真4 緑化木のカラーリーフの組み合わせ
(高岡市 成美校下花と緑の推進協議会)

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②

青色フジバカマ

職藝学院

教授 渡邊美保子

青色フジバカマは、一年草のアゲラタムに良く似た花を咲かせる寒さに強い宿根草です。草丈は50cm位で、9月初旬から10月中旬にかけて淡い青紫色の小花が集まって咲きます。満開になると水色の絵の具で点々と染めたような姿になります(写真1)。開花期間は、宿根草にしては長く1ヶ月以上もあります。また、花壇に一株植えると地下茎が横に伸びて広がってゆくため、雑草が入りにくくなります。広い土地を持てあましている方には特におすすめです。



写真1：青色フジバカマ 9月中旬

青色フジバカマは、5月の中旬には黄緑色の新芽が出そろい、6月から7月にかけて地下茎を横に伸ばして人知れず陣地を拡大していきます。土がむき出しになっているところが大好きです。お隣さんの宿根草にぶつかると、前進が止まったように見えますが、実は、どこかに根っこを伸ばせる隙間がないか探しています。

青色フジバカマは、植え付けて一年目は、まるで一年草のアゲラタムのように、その場所でおしとやかに咲いてくれます。そのため、植えっぱなしでいいアゲラタムを手に入れた気分になって、植え替えをしなくて楽ちんだ、と喜びます。しかし、3年目位になると、どんどん陣地を拡大していくので、どこまで広がったら気が済むのだろうかと不安になります。はたして、すべて抜くべきか、育てるべきか、こんどは、もんもんと悩みます。引き抜いて捨てるのも忍びないので、青色フジバカマを持っていない人が花壇にやってくると、毎年咲いてくれて重宝しますよと、宣伝して株を分けてあげてほっとします。それもつかの間、根っこを掘り上げた後に地面がむき出しになるので、根っこの勢いは増すばかりです。

そこで、青色フジバカマの勢いのある地下茎の

侵入をくい止める方法をお伝えしたいと思います。7月初旬ごろに好ましくないところまで侵入している地下茎をはぎ取ります。はぎ取る時に切れた地下茎は土に残さないようにしましょう。それから、青色フジバカマの株の周りに沿って、茎を一つかみ握っては切り、また、握っては切って、地面から5cmぐらいのところまで切り戻します(写真2)。花が咲く前に、このひと手間をかけてあげると自分の陣地でおとなしく咲いてくれるようです。

写真2：青色フジバカマの茎の切り戻し（手前）
7月初旬

青色フジバカマは、東南から南側の日当たりのよい場所を好みます。西日の当る暑い所は苦手なようです。植え付ける前に、完熟牛糞堆肥をたっぷりすき込みましょう。おすすめの組み合わせは、いろいろな一年草との混植花壇です。青色フジバカマを花壇の奥に植えて、その手前に段々と草丈が低くなるように一年草を組み合わせます。青色フジバカマの隣には、黄色系統のマリーゴールドやメランポジューム、紫色のセンニチコウなどの一年草を植えますと、6月から10月頃まで楽しめる花壇になります。(写真3)



写真3：青色フジバカマ（淡青）、センニチコウ（紫）、メランポジューム（黄）など。とやまスローライフ市民農園「花の散歩道花壇」10月初旬

平成27年度富山県花のまちづくりコンクール

学校花壇部門 最優秀賞
富山市立四方小学校



【審査講評】

土づくり、除草、水やり、花がら摘み等、どの管理も行き届いていて、草種、品種を問わず様に生育のボリューム感や瑞々しさが出ていて、優れた花壇に仕上がっていました。

全校生徒が取り組む「全校花壇」の四方丸ではコキアやテラスライム等の葉物を効果的に配置し、シソの紫でアクセントをつけるなどの工夫が施され、波や雲がうまく表現されていました。また、五年生が取り組む「フラワーロード花壇」では高学年らしく独自のデザインや自主的な一連の管理のもと、サルビア、トレニア、コリウス等で豊かな配色、立体感が演出され、海岸の流木や浮きを使って地域色も出していました。

花壇の説明に参加してくれた子供たちに色々と問いかけをしましたが、受け答えがしっかりしていて、花壇への関心と熱意がよく伝わり、指導されている先生やグリーンキーパーさんの後押しもしっかりしていると感じました。

(審査委員長 松下真一郎)

一般花壇部門 最優秀賞

砺波市 南般若花と緑の推進協議会



【審査講評】

「かがやき花壇」と名付けられたこの花壇はその名のとおり今年度一般花壇審査対象（推奨花壇を除く）の中で最も素晴らしい出来で、本当に輝いていました。

何といっても、花の状態が良く（生育状況・開花状態）、デザインもよく考えてありそれぞれの向きの異なる3つのハートマークが素敵に配置してあり、また、グループ全員の熱意と努力が手に取るように見えるようでした。

技術的には、審査日に合わせてペチュニアのピンチを行うなど苦勞の結果が出ていました。特に良かったのは土の量です。審査したほとんどの花壇（推奨花壇も含めて）では、土が縁石の高さ目いっぱいに入っているのに、この花壇では縁石の5～6センチ下までの土量で、灌水や排水のことまで良く考えてありました。また、管理用の通路もきっちり整備されており、デザインの段階から経験豊富な指導力が見てとられました。

ただ一つ残念なのは、花壇ができて7年経過して土作りに力が注がれてきた結果として、有機質に富んだ素晴らしい土壌状態になっていますが、おそらく有機物の量が多過ぎて排水が少し不良な個所ができ、結果としてペコニア・センパフローレンスに根腐れによる生育不良症状が見受けられました。今後、くん炭などの資材の投入も検討してもらえればと思います。

(審査委員長 西尾 正)

幼稚園・保育所花壇部門 最優秀賞
富山市 四方保育所



【審査講評】

花壇の特徴は、子どもたちが花壇の中に入りたくなるような工夫が随所に凝らされていることにありました。加えて、四方という地域性も十分に生かされている花壇でもありました。

新幹線の開業が大きなテーマとなっていました。四方の定置網の浮きで造った模型の新幹線は、子どもたちが苦勞せずに遊べるよう低く設置されており、模型にまたがって楽しそうに遊んでいる姿を目の当たりにすることができました。また、蔓性植物（ルコウソウ・四角豆・フウセンカズラ・ツルムラサキなど）によるトンネルをくぐり、広めにとった花壇の道を元氣よく通りながら草花や小動物にふれ合っている姿もみられましたが、これらはまさに子ども目線に沿った花壇づくりになっていることを示しているものと言えます。

さらには、花壇づくりが地域の方や保護者を巻き込んでなされ、土づくりをはじめとする栽培管理が十分に行き届いていることから、今年のような厳しい気象条件の中でもボリューム感のある素晴らしい花壇となっていました。

以上のような点で、幼児期の園児がふれあう花壇として総合的に高い評価が与えられました。(審査委員長 名畑清信)

花の道部門 最優秀賞

砺波市 五ヶみちグループ



【審査講評】

遠目にも目立つスッキリ・クッキリとした色彩の美しさを、審査員全員が高く評価しました。特に前列の白のラインが印象的でしたが、近寄って見ると同じ花ではなく、南側の花壇ではペチュニアの白が、北側ではニチニチソウの白が使われており、二列目の黄色のラインも、メランポジウムとマリーゴールドというように工夫が見られました。また、ヒマワリの群生やノウゼンカズラやフウセンカズラなどのつる物を支柱で高く見せ、高低差によるメリハリをつけて単調にならないようにしたのも良かったです。イボメアの植栽の株周はもみ殻堆肥で囲まれ、色彩のコントラスト向上と雑草・土跳ね抑止の効果が上がっていました。一寸の隙もなく密植された花壇は窮屈で時に暑苦しく感じることもありますが、このような空間を活かした花壇は、植え込まれた植物の生長への期待で見る人を和ませます。

グリーンキーパーを中心に、自治会、児童クラブ、長寿会が手分けして土作りからデザイン、植え付け、水やりなどに取り組み、地域で他グループとの交流・連携を進めていることも評価されました。(審査委員長 中田政司)



異世代交流で123メートルの花畑づくり

花と緑の銀行富山支店

新庄北地方銀行 頭取

グリーンキーパー

協力員

寺嶋

今家

谷島

宏

進

男

平成22年4月に新庄北小学校が開校したとき、級友との別れを経験し寂しそうだった子供たちに、早く親しい友達を作ってもらおうと、花と緑の地方銀行、社会福祉協議会などの団体と一緒に異世代交流で、花壇づくりに取り組む事にしました。学校の横を流れる中川堤防に花壇を作りましたが、名前は生徒から募集し、花壇の長さが123メートルであったことや、当時花壇に関わっていた3年生および地域住民の人数が123名であったことから、「123メートルの花畑」と名付けました。

当初は砂利の多い土壌のため生育が悪かったのですが、間伐材等を利用して花壇枠を設置したり、堆肥を入れたりして土づくりをすすめてきました。このような花壇の枠組みづくりは地域住民が、花壇の「水まき、草取り」の管理作業は生徒が主に担当しています。小学生から、夏休みに花

に水をやることが出来ず心配だと手紙が届き、長寿会をはじめ地域の皆さんで当番を組んで水まきすることもあります。

小学校3年生が1年間花づくりを学習し、秋には種を採ったり、ペコニアの「株あげ」をしたりして、翌年の新しい3年生に花づくりのバトンを渡しています。県や市の花壇コンクールで表彰されたことや、異世代交流しながら植栽する姿が地元の新聞に紹介されたこともあり、地域の応援者も徐々に増えてきました。

将来、花壇以外の堤防にも菜の花やコスモスを育て、所々に休憩ベンチを設置し、癒しの“しだれ桜”を植えるなど、異世代交流を深めながら花づくりを発展させ、校区の美しい散歩路となれどと夢を描いています。



花づくり実施当初



小学校3年生と地域住民の異世代交流

〈情報コーナー〉

新幹線駅周辺花いっぱいおもてなし事業の取り組み

花と緑の銀行 緑花推進部

当財団では、富山県からの委託を受け、平成27年3月14日の新幹線開業時から、県内の各新幹線駅（富山駅、新高岡駅、黒部宇奈月温泉駅）の構内に、県花である「チューリップ」や富山ゆかりの「サクラ」「無花粉スギ立山森の輝き」「薬草」「花き」などを華やかに展示し、新幹線を利用される方々に、季節感あふれる花と緑での「おもてなし」に取り組んでいます。

展示に関しては、花プランターを飾る展示枠や花材は、全て県内生産された物を使用し、季節ごとの展示を行う予定です。（春・夏・秋・冬）

この取り組みにより来県された方々には、花と緑にあふれる富山県の美しい自然を堪能していただく「第一の顔」として、関係者が一丸となり駅構内を花や緑で飾り、精一杯の「おもてなし」を進めています。



富山駅（3月新幹線開業時展示）



新高岡駅（7月展示）



黒部宇奈月温泉駅（7月展示）

表紙写真：「夏の松桜閣」 撮影場所：（黒部市若栗）

裏表紙写真：「溪流のセンジュガンピー 8月上旬、富山市有峰にて」…写真提供 長谷川幹夫



「溪流のセンジュガンピー 8月上旬、富山市有峰にて」



花と緑の銀行だより 197号

発行日 平成27年9月

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。